

令和3年度第7回紋別市総合教育会議録

- 1 日 時 令和4年2月17日（木）午後3時00分～午後3時31分
- 2 場 所 紋別市役所 市長応接室
- 3 出 席 者 紋別市長 宮 川 良 一
紋別市教育委員会教育長 堀 籠 康 行
紋別市教育委員会教育長職務代理者 小 林 正 男
紋別市教育委員会委員 上 林 善 證
紋別市教育委員会委員 渡 邊 孝 博
紋別市教育委員会委員 古 屋 真由美
- 4 構成員以外の出席者 総務部企画調整課長 竹 本 幸 孝
- 5 事務局関係 教育部長 佐 藤 健 吾
学務課長 仲 条 憲 明
学務課指導主事 綾 部 雅 一
スポーツ振興課長 田 島 慎 二
学務課庶務係長 米 田 晃
- 6 協 議 内 容 (1) 紋別市の体力・運動能力について

令和3年度 第7回紋別市総合教育会議 午後3時00分開会

○宮川市長

定刻になりましたので、令和3年度第7回紋別市総合教育会議を開催いたします。進行につきましては、私が務めさせていただきます。

それでは、次第に基づいて、本日の協議に入らせていただきます。

協議事項（1）紋別市の体力・運動能力について、事務局から説明をお願いします。

○綾部学務課指導主事

それでは、協議事項（1）紋別市の体力・運動能力について、説明させていただきます。まず1枚目の資料「令和3年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果」をご覧ください。

令和3年4月から7月にかけて、本調査が小学校5年生と中学校2年生の全児童生徒を対象として実施されました。こちらの資料は紋別市内小中学校の結果の概要を、広報もんべつ3月号に掲載する内容となっております。昨年度は新型コロナウイルス感染症により本調査が中止となったため、今回は2年ぶりの結果公表となります。中段以降のグラフをご覧ください。緑の線が全国、青の点線が北海道、そして赤の太い線が紋別市となっております。左の列が小学校、右の列が中学校、上の段が男子、下の段が女子となっております。

今年度の結果につきましては、全国・全道平均を超えている種目が複数ある一方、柔軟性がやや低い結果となりました。

新型コロナウイルスの影響により、全国的に体力低下傾向が強まっておりますが、今回調査対象となった市内小学5年生、中学2年生につきましては、特に男子で数値の維持・向上が見られ、相対的に全国平均や全道平均並み、若しくは上回る種目が多くなっていると考えられます。

これは、市内各学校における授業改善や、様々な体力向上の取組が進んでいることが、大きな要因として考えられます。

ここで別紙の資料①をご覧ください。本調査の対象学年である小5・中2以外の学年につきましては、各学校で同様の体力テストを実施していただいております。こちらの資料は、現在の小学4年生以上の学年で実施した体力テストの結果を、平成30年以降の経年データにまとめたものとなっております。

こちらのデータを見ていきますと、やはり新型コロナウイルスの影響からか、令和元年以降、すべての学年で棒グラフが右下がりになっている種目が多く、明らかに体力低下の傾向が強まっていることがわかります。特に、下がり幅の大きい種目は赤い四角で囲っております。

全体的に低下傾向が見られる一方、点線で囲っている調査対象学年については、矢印で示しているとおおり、一部の種目で伸びが見られます。

このことから、調査対象学年では体力の維持・向上が図られていますが、市内児童生徒全体でみると、全国と同様に体力低下傾向が見られる状況だということがわかります。

続きまして資料②をご覧ください。今回の調査対象学年に係る体格調査のグラフになっております。

まず小学校ですが、大きな特徴としましては、男女ともに体格が全国・全道と比較して非常に大きいことがわかります。女子は若干肥満傾向が強くなっておりませんが、体格のよさが実技の結果に反映されているとも考えられます。逆に、疾走能力で若干の低さが見られるのも関連性があるのではないかと考えられます。

続いて中学校ですが、こちらは小学5年生時点から中学2年生までの経年で比較しております。男子は肥満傾向が強まる一方で、女子は痩せ傾向が強まっていることがわかります。痩せ傾向が強まっている原因は現在のところわかりませんが、中学校女子の全般的な体力の低下に影響している可能性も考えられます。合わせて、健康への影響等について指導していくことも必要であると考えられます。

最初の資料に戻りまして、裏側をご覧ください。こちらは質問紙調査の結果となっております。良かった点としましては、児童生徒の運動やスポーツ、体育授業に対する肯定的な回答が多くなっている点でございます。運動への意欲や、運動を通して得た達成感を得ている児童生徒が多くなっていると考えられます。

一方で改善が必要な点としましては、朝食摂取、スクリーンタイム、自己肯定感に関する項目となっております。こちらの項目は、全国学力の質問紙調査の時も全く同様の結果が見られたため、前回1月の総合教育会議でも説明させていただいたところです。いずれの項目も、家庭において保護者が子どもの育成にどれだけ関与しているか、ということに深く関わる項目です。引き続き、市全体の課題として、広報により啓発を行っていきたいと考えております。

今後も引き続き、調査結果を参考として課題を明らかにし、必要な施策を講ずるとともに、各学校に対しましては、コロナ禍において自校の実態に合わせた工夫をしながら、年間を通じた取組を行うなど、児童生徒の体力向上を図るよう指導してまいります。

以上で説明を終わりますので、よろしく申し上げます。

○宮川市長

それでは、ただ今、事務局から説明がありましたが、ご質問やご意見がございましたらお願いしたいと思います。

○小林委員

驚いています。

○宮川市長

女子が、どういう感じなのか。市の保健センターとの関係もあるのかどうか分かりませんが。給食を採っている部分もありますし、若年糖尿病などいろいろ言われていますが、そういう傾向はどうなっているのか。聞いてみたいところはあります。

○古屋委員

中学校に行くと、自分の体型を気にするようになるのでしょうか。人の目を気にするから、細身になっていくのか。スポーツでは、少年団には、女の子が入るスポーツは少ないのでしょうか。

○宮川市長

少年団の女の子がやるスポーツはどのようなのでしょうか。

○田島スポーツ振興課長

スポーツの少年団は、市内に15団体ありますが、ほとんど男子も女子も参加できるもので、野球やサッカーなど、基本的に男の子が多いところでも、女の子が入るケースはあります。バレーやバスケットボールであれば、男女が入っています。剣道や柔道も、柔道であれば女の子も結構いますし、それほど少年団のうちに男女差はないのですが、逆に中学校に行ったときに、女子だけの種目がなく、体力差があって、男子と一緒にできないということがあります。そこで、今までやっていた種目を止めて、違う種目に行ってしまうということがあります。

○上林委員

スポーツ少年団に所属している子は、問題はないですね。普段から運動をしない子が問題で、これは平均値なので。ふだん運動していない子に対して、どう運動させるかという。難しいですが。

○堀籠教育長

コロナの中なので、学校の体育が非常に、体を動かすことに比重が大きくなってきて、小学校は体育授業で維持していますが、中学校は体育以外に部活動などがあるので、差が出てしまうのではないかと思います。

○上林委員

中学校で部活動に入っていない帰宅部が多いのでは。

○堀籠教育長

やはり、スクリーンタイム、ゲームなどをしている時間が長いので、体を動かすとなると、学校の授業など、学校が請け負わなければ、家では、なかなかできないということになっています。

○宮川市長

学校の送り迎えも多いですから。

○渡邊委員

それはあるかもしれません。

○宮川市長

昔は、歩いて学校との往復だけでも、結構、足腰が鍛えられていました。

○小林委員

遠くから通っている子どもは、運動会では足が速いですから。今の子どもは、運動する機会が少ないのでは。

○渡邊委員

中学校の女子が、体力がなかったり、細かったり、原因が分かりません。

○上林委員

思春期ですね。

○渡邊委員

その年頃は、スタイルなどを気にすることがあっても、おなかがすくので、食欲が優先するのではないかと思います。例えば、高校生になって、スタイルを気にしてダイエットをするというのはありますが、中学生ぐらいでもそういったことを考えるものかと思います。

○古屋委員

十分考えると思います。小学校のうち、食欲あっても、中学校では、食欲を我慢するのではないですか。

○渡邊委員

ただ、育ち盛りの中学生のときに、基礎体力が付くと思うのですよね。成人して、大人になり、子どもを産むときに、いろいろな弊害が出てきそうな気がします。病気になりやすい、体力がなくて、育児ができないということにつながっていくのではないかという気がします。

○上林委員

先ほど市長から糖尿病の話がありましたが、結構、骨折が多いですよね。骨が弱くなってしまって。それは、食生活もあるだろうし、運動というのものもあるだろうし。骨は、恐ろしいですよね。子ども本人は、分かりませんからね。骨が弱くなっているなんて。

我々のように、強い骨を持っている人間が、今の子どもは、すぐ折れてしまうという、弱いという意識がありますが、子ども本人は分かりません。それは、ある意味、教えてあげないと、今のままだったら支障が出てしまい、関節も弱くなってしまうます。

○小林委員

今はいいですが、将来が心配です。糖尿病や高血圧など、生活習慣病のような病気が増えるようなことがなければいいですが。

○渡邊委員

朝ご飯以外でも、きちんと食べているのかと思います。少し気になります。

○上林委員

ダイエットを気にしていたら、食事を食べなくなってしまいます。

○宮川市長

子ども達の親自体が、食べる世代なのかどうなのか。

○渡邊委員

そこは、気になります。市場調査ではありませんが、イオンのレジ前で見ましたが、買物をされる方のほとんどは、魚や野菜などの原材料を買わなくて、デリカテッセンといって、できあいのものや冷凍食品を買っている方がすごく多いです。だから、そういったこともあるのかなと思いました。そういったところで、食べ物が偏っているのかと。

紋別は、漁業が中心ではないですか。そういったときに、みんな魚を食べているのかなど。市内のスーパーを見たときに、鮮魚のコーナーがすごく小さいと思うのですよ。というのは、旭川や札幌は、人口も違いますが、スーパーに置いている鮮魚の売場が、紋別ってすごく小さい気がします。小さいということは、お客さんが求めないから、基本的に小さくなっていくと思います。漁師さんは、自分で捕るからいいですが、紋別の中に漁師さんが何人いるかと考えたときに、一般の人はどのように食べているのか。普通、スーパーで買う物だと思います。それは、子ども達の食生活に関わってきます。意外と加工食品を買っていると。原材料の野菜、魚、そういう物って、きちんと調理をして食べさせているのかと。

親が共働きで、料理を作る時間がないのかという気がしたので、食生活が気になりました。きちんと調理して、カロリーを考えている人が、それほどいるとは思いません。

○小林委員

学力の方は、全国に近づきつつあり、良い傾向はありますが、体力については、全然考えていないというか、成り行き任せのところがあると思います。今後、保護者も含めて情報を出した方がいいと思いますが。どうでしょうか、教育長。

○堀籠教育長

実は、小学校が維持できたのは、私どもの取組というか、小学校は、やはり、担任の体育の能力ということで、平成30年ぐらいから担任の教諭に体育のコツを教えるという取組をずっとやっていて、その年から全学年で体力のテストをやるようになったのですが、そのおかげで、子ども達が体力テストのコツを覚えている。ボールを投げるというのは、コツなので、コツを覚えると、伸びるというのがあるので、この結果を見て、小学校では体育の授業でやった効果がでていないかと思っています。中学校ができていないのは、中学校の先生達と折を見て話さなければならないかと思っていますが、先ほど、委員皆さんからお話があったとおり、子どもを育てる10年後や20年後に、子ども達の半数以上は100年以上生きると思いますが、長生きしても健康でないこともあり得る可能性があるので、やはり、ある程度体を動かす機会を覚えられる若いうちに、取り組みやすいところから、今まで性別の差によるスポーツの機会を考えてきませんでした。今後、そういったところも考えていくべきではないかと考えています。

○宮川市長

いろいろ比べるものではないので、基礎体力がどこまで必要なのか。そこをまずクリアすることだと思うので、そこをきちんと、知らしめられるよう、基礎体

力をしっかりと維持できる方策を考えなくてはならないと思います。

実は、食育が全然進んでいないのですよね。保健センターが食育を担当しているのですが、子ども達に食育を教えて、親に話すぐらいになれば、親も考えてくれるようになるのではないかという気がしますので、教育委員会と保健センターが協力をしながら、今、教育委員会でやっているとしても、給食センターで地元の食材を年に何回か出す程度なので、体力維持もそうですし、スポーツをやっている子には、こういう食生活が良いよとか、頭が良くなるためには、こういう食べ物が良いなど、子どもたちに興味を持たせながら食の教育というものを学校やってもらような形になってきたら、それが親に伝わります。やはり、親は子どもに言われたら、食育を考えるようになると思うので、今後、そういったことを考えていかなければならないと思います。

○堀籠教育長

保健センターから、そうした健康教育という提案も受けて、学校教育と連携してできないかというようなお話も来ていると聞いているので、また協議していきたいと思います。

○宮川市長

こういったデータがあるから本当に、子ども達には自覚していただいて、親が興味を持って何とかしないとなかなか難しいですね。

○渡邊委員

親は、分かりそうな気がします。子どものうちに食育、栄養のバランスを取り、そういったところを重点的にしていただければ良いかなと思います。食育は、世の中で叫ばれているので、非常に大事かと思います。

○小林委員

資料2の肥満傾向というのは、向こうは隠されているのではないですか。全国平均より、かなり高い数値ですね。

○渡邊委員

これには、ゲームが関係しているのでしょうか。

○宮川市長

もっと、身長が伸びればいいのですが。

○渡邊委員

保護者は小さいのに、子どもが大きくなることがあります。

○堀籠教育長

栄養改善で、伸びたのは止まったと言われています。戦後の栄養改善で、親の世代より背が高い人が多かったですけど、最近はそうならなくなってきた。やはり、遺伝子的なストップなのかなと思います。

○竹本企画調整課長

中学校のグラフをみると、テストのときに、きちんとやっているのかなと思いました。小学生ぐらいであれば、きちんとやるじゃないですか。勉強と違って点数が付くわけでも、成績に影響する訳ではないので、本気でやってこの結果であれば、少し心配だと思います。

○上林委員

それは紋別の子もだけではないと思います。

○渡邊委員

入学式や卒業式に行くではないですか。肥満の女子がいない。そういう気がします。

○宮川市長

スタイルがいいですね。

○渡邊委員

やはり、かわいいですね。でも、いろいろなものに影響が出ているような気がします。

○堀籠教育長

モデルが痩せすぎだという価値観があって、やはり、痩せすぎだと健康に良くないというのがあります。

○竹本企画調整課長

昔の日本のアイドルは、ぽっちゃりしていましたが、今は、韓国の人達を子どものうちから見ているので、影響はあると思います。

○渡邊委員

オリンピックを見ていると、痩せた選手が多いですね。フィールド競技は別ですが。トラック競技にしても、今回、スノーボードなどを見ているんですが、特に、フィギュアの方は、こんなに細いのに飛んだりするし、レベルが違いますが。

○宮川市長

私たちには、難しい問題だと思います。

○堀籠教育長

今回、広報に掲載して市民に見ていただきますので、こういった状況にあるということを知っていただきます。

○宮川市長

そうですね。問題意識を持ってもらえば良いです。

○堀籠教育長

施策も考えたいですが、やはり、こういった現状をお知らせして問題意識を持っていただき、意識を変えていただきたいと思います。それぞれで見ていただいて、どう思うのかです。

○渡邊委員

勉強も体力というのもあると思います。

○宮川市長

最後は、体力があるかどうかです。

○堀籠教育長

勉強をやり抜く力は、体力がないと、やりぬけられない。

○宮川市長

体力が落ちてきたら、気力もなくなってしまいます。

○小林委員

この年齢になってくるとトレーニングしても体力は増えません。

○渡邊委員

維持ですね。

○小林委員

維持できれば良い方です。あとは、衰えていくだけなので。若いうちに、できるときに、いろいろなことをやった方が良いと思います。

○宮川市長

そういうことが結論で、よろしいでしょうか。

○各委員

了承

○宮川市長

以上で、第7回紋別市総合教育会議を終わらせていただきます。どうもありがとうございました。

午後 3 時 3 1 分 終了